

平成5年 3月31日 発行
社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会
ボランティアセンターだより編集委員会
〒560 豊中市中桜塚2-28-7
☎(848)1000

ボランティアセンターだより

第一回豊中ボランティアフェスティバル
みんなで創った心があたたかくなった



MCAのリーダーの若さいっぱい ステージ



会場は、熱気でいっぱい

二月二十一日(日)庄内ロイズ文化ホールで「第一回豊中ボランティアフェスティバル」が開催され約六百人の参加がありました。この行事は、昨年十月に市内の約四十のボランティアグループにより豊中市社協ボランティア団体連絡会が...

が結成され、もつと市民の方々にボランティア活動を知らせてもらいたいと企画、運営ともすべてボランティア自身による手作りで行われました。当日は、ステージ発表やパネル展示、各種ボランティア体験コーナー、ボランティア相談コーナー、障害者の授産所の作品展...

声

入学、入社、新しい道に躍進の季節がやってきます。先日テレビで人工呼吸器をつけて、尼崎市内の普通小学校へ入学した少女の母親、担任の先生との苦闘の一年間の記録を見て感動しました。担任の先生と少女のふれあいは最初はピツタリせず、小首をかしげる先生が「この子には、明日がわからない。だからやりたいと言ったことはクラスの子どもと同様にやらせたい。」と涙ぐみ訴えるお母さん。先生の工夫と介添えで実現した運動会。小さなブルーで手足も動かしませんでした。努力が少しずつ実ってきて先生と少女の喜びが伝わってきました。(T.T.)

私たちボランティアもいたずらに情けにおぼれることなく、対等な人間関係の中で助け合って相手に喜ばれたとき自分を振り返り人生の様々な事を教えて頂く喜びを感謝する気持ちになります。金々で名を成し、金で身を減らす政治家がまかりとおる昨今、国民まで道連れにしないで欲しいです。日本古来の清潔で、簡素で、近所の人を思いやる心でおつきあいたいものです。自分にあつたライフスタイルで、ただ一度の人生を「すてきな人生」となるようふれあつた人々と喜びを分かちあいたいと願っています。(T.T.)



感動の手話コーラス



手作り介護用品コーナー



障害者の作業所の店も大にぎわい



車椅子の方も一緒に詩吟を披露



ガールスカウトのかわいいステージ

参加者 600人

今回参加して今まで私の考えていたボランティアの近寄りがいイメージが変わりすばらしかった。(四十代女性)
とっても温かい気持ちになりました。(二十代女性)
若い方がたくさん参加していらっしやるのが良いと思った。(六十代女性)
豊中の街もすてなもの

やないなあど嬉しい気持ちになりました。次回家族連れで参加させて頂きます。(四十代女性)
会場が熱気いっぱいでした。感じるほどでした。(六十代男性)
すばらしいことなでもっと市民にPRして欲しい。(三十代男性)

ボランティアはいま パート1

私は、今までボランティア活動に興味をもっていたもののなかなか行動に移すきっかけがなく、今回高校を卒業して大学の入学もきまりおもしろいって、社会福祉協議会の扉をたいてみました。「特技は？」と聞かれても、取り立てて何もないので、「将棋」と応えたところ数日後に、将棋の好きな筋ジストロフィーの十八才の男の子の付添いを頼まれて出かけました。彼は、車イスで乗っていて最初のように接した安んじたいのか分らず多少不安でしたが、とても明るい人です。また、同じ年ということもあってか、すぐに打ち解け仲良くなりました。最初「ボランティア」ということで構えていた自分が、おかしく思えるくら

いとても自然に将棋をしてお互いに楽しい時をもつことができました。また、二度目に病院を訪れたときは、私の来るのをエレベーターの前で待っていてくれたり、将棋が終わった後には、「また来て下さい」と言ってくれたら、自分のことを待っていてくれる人がいるということとはなんど嬉しく清々しいものだろうと実感させられました。ことばでは分かりましたが、「ボランティア」とはギブ&テイク、支え支えられるものだとまだ駆け出しの私が言うのは生意気なようですが、本当にそう思いました。これからも、色々な人に出会い、様々な体験をして心豊かに生きていきたいなと思っています。(刀根山 黒田清登)

刀根山 黒田清登

刀根山 黒田清登

ボランティア保険のご案内

Table with 4 columns: 保険の種類, 加入対象, 料金, 保険期間. Includes details for ボランティア保険, 有償活動保険, 子供保険, 行事保険.

詳細はボランティアセンターまで ☎(848)1000

毎年、4月から翌年3月31日までの1年間 (途中加入の場合、毎月1日、10日、20日から発効)

◎専門職の役割を考える

三月十五日(月)滋賀県の大津市地域保健推進協議会(大津市における保健福祉のネットワーク会議)から8名の保健福祉の専門職(ケースワーカー、福祉課の職員、保健婦、社協教職員)が豊中市における社協とボランティアとの関わり支援体制について視察に来られました。



懇談会のようす

その懇談の中から、「住民の自主的な活動を支える専門職の役割」についてまとめられます。

◆豊中市社協ボランティアセンターの開設が地域ニーズの発掘に

豊中市社協は、昭和六十三年度より本格的にボランティアセンター事業を実施し、地域で今まで埋もれていた福祉ニーズが寄せられ、それらの課題をもとに現在8つのボランティアグループを組織化しています。

◆近所福祉が今後の課題

「みちしるべ」外出介助を中心に在宅リハビリ、脳卒中の後遺症の方々の援助等もしている。その中で、ボランティアの実績が認められてか制度化されたものもある。

ボランティアは仕事と違うので、個々人がそれぞれ

哲学をもつ必要がある。同じ市民同志、いいたいことをいながら対等にお付き合い出来るところにボランティアがある。職員とボランティア自身は、制度や福祉サービスの対象にならない光の当たらない障害者やお年寄りの援助を化している。社協は潜在化しているニーズを掘り起こす営業窓口のようなもの。

但し、豊中も広いので今はもっと小地域での支えあいが必要、近所福祉の推進が今後の課題といえる。



ガイドヘルプの訓練

◆ボランティア自身が自らの限界に気づくこと

現在、独り暮らしのお年寄りや電話を希望される約二百名の方を対象に友愛電話訪問を行っている。

ボランティアは親切な人が多いのでつい、頼まれるといやといえず、自分が全て対処しないといけないような錯覚に陥る。

ボランティアは何の資格も技術もない善意に支えられた行為ゆえに自らの限界を知る必要がある。

◆在宅への活動は、専門機関との連携を(ステッキ)

寝たきりや痴呆症のお年寄りをかかえる世帯では、実際介護に困っているにもかかわらずボランティアに援助を求めるとは抵抗がある。現在は、月1回介護者が懇談会をしてい間にミニサービスのようなお世話しているが、個別ケースへの対応をする場合ももっと専門家との連携が必要である。

レポーター訪問記

～堺市のボランティアセンターを訪問～

三月二十六日、市社協主催の福祉の一日体験講座が行われ、登録ボランティアなど二十六名を乗せたバスは一路目的地、堺市社会福祉協議会ボランティアセンターへと向いました。

七階建ての福祉センターは市の中心にあり、その一階に相談室、図書室も完備し、ゆとりのあるスペースに開放的な雰囲気。ボランティアセンターが、ボランティアセンター事業の中核をなすボランティア相談員は、毎日午前、午後を九名のボランティアで一人ずつ受け持ち、相談、登録、需給調整という重責を努めておられるのは驚きました。相談員は、十七年のベテランから三年の方々と経験年数はちがうけれども、どの方もさまざまボランティア経

験があり、地域にも詳しく関係機関との繋がりもあるそうです。また、社協の職員と話し合いながらそれぞれのケースを一つ一つ解決していく体験談や、苦勞話からは、本音が聞かれて身近かな人間味を感じました。

豊中と堺では、規模やセンターの出来た経緯も異なりますが、多様化している課題にその地域に適した対応をあたたいまごころと謙虚な態度でボランティア自身が勉強向上していくことこそが発展につながるのだと思われま。

豊中の登録ボランティアのまとまりの良さを胸に感じつつ、大きく飛躍するたけがなければ、拡げよう、続けようボランティア。有意義な一日でした。

(林 暢子)



友愛電話訪問の聴くの会

◆自分を必要とする人との出会いが活動の原動力(小さな手)

二十代から七十代まで、みんなが自分のできる範囲で寝たきりや障害者の方々の用品を製作し、届けている。家庭を大切にしながら、協力しあうところにボランティアの良さがある。

普通の主婦が、自分を必要とする人たちに会いお役に立てることは、本当に嬉しい。

◆質疑応答

この後、専門職より質疑がありました。

「質問」豊中のボランティアの方々は神様みたいに優しく、無償でどうしてこんなことが出来るのか。

◆ボランティア自身も活動を通じて視野も広がっている。

ただ、「無償やから頼まな損」というのではなく、ボランティアと対等に地域を支えるものとして話合い、ボランティアはもとより善意に支えられた不安定なものだから、いつまでも支えられっぱなしでなく、制度化を進めていけるものはアクションを起こすべきである。

◆どんなに優秀な専門職でも一人の力には限界がある。

◆当事者を地域で支えるためにどんな人たちが手を結べば(ネットワークキング)生活が支えていけるのかを考えていくことも今後の大きな役割と考えられる。

◆質問「老人ホームの入所の相談でもゆくり聞きたいが、時間にも余裕がないのでどうしても充分な対応ができない。」

◆お年寄りの話しは、特に最後に本音が出る場合が多い。じっくり相談できる体制がないと行政不信になる場合も多い。地域で日頃から相談できる人との繋がりを作るとか話しの内容を整理してあげるなど住民同志の繋がりの中で、もっと有効に本人を援助できる場合もあるのでは。

◆まとめ

地域にさまざまな福祉課題があらわれると同時に、専門職とボランティア、地域住民との関わりも増えてきます。

しかし専門職が、ボランティアを単なるお手伝いとしてしか捉えないのであれば、必ずボランティア自身

の活動の原動力であるやりがいが増えたり、専門職には、今後それぞの事業や仕事を進めると同時に、住民の自治を育てるといふまちづくりの視点で地域の課題の解決に向けて、対等に当事者や住民とともに支援体制を創っていくかどうかが問われているように。

大津市職員感想

身近にああいう方たちがいて下されば心強いだろうと思う反面、それに応えられるだけの力をつけ努力もしなければと思っ

登録ボランティアが語る喜びや悩みに活動している力強さを感じた。

社協の職員との信頼関係、対話を通じて関係を見て、一緒に進んでいること、すばらしさを感じた。

ボランティア自身が直接サービスをを行う中で、ニーズの困難さや行政の立場も理解しながら活動の展望を明らかに発言していることに驚いた。

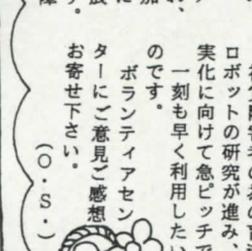
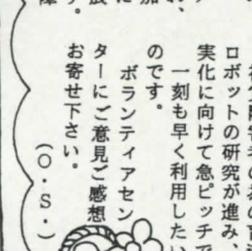
ボランティア活動の手引きパート3を手にし福祉の日進歩を感じます。

第一回豊中ボランティアフェスティバルが開催され、予想を超える六百名の参加があり、関心の高さと共に皆様の気概が今後活発に展開されるものと期待します。今年、アジア太平洋障

害者十年が始まりました。視覚障害者の為の盲導犬ロボットの研究が進み、現実化に向けて急ピッチです。一刻も早く利用したいものです。

ボランティアセンターにご意見・感想お寄せ下さい。

(O.S.)



◆ボランティア活動の手引きパート3のご案内

市内のボランティアグループの紹介ができました。必要な方は、市社協ボランティアセンターまで。

☎(八四八)一〇〇〇

◆ボランティア手帳の配布

市内でボランティア保険に加入しているボランティアグループの方々にボランティア手帳を配布します。希望者は、市社協ボランティアセンターまで。

☎(八四八)一〇〇〇

◆ボランティアフェスティバルのビデオ貸出し

第一回豊中ボランティアフェスティバルがビデオになりました。希望者に貸出しています。

☎(八四八)一〇〇〇

4月1日から

豊中市社会福祉協議会は

土曜、日曜日は閉庁になります。

ボランティアの広場